

相互提案型協働事業実施報告書

令和8年4月30日

(宛先) 座間市長

団体 住 所 座間市入谷東2-8-3-912

名 称 NPO 法人 障がい者福祉の虹の会

代表者名 代表 大場正昭

市 担当課名 福祉部 障がい福祉課

所 属 長 佐々木 幹



次のとおり報告します。

1 事業名	障がい者にも優しいまちづくり支援事業
2 事業形態	☒ 市民活動団体提案協働事業 ☐ 市提案協働事業
3 選考年度	令和6年度選考 (令和7年度実施)
4 報告期間	令和7年4月1日 から 令和8年3月31日 まで
5 事業費	1,017,000 円 (うち座間市支出分 476,000 円)
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。 【記載文字数 449 字】	当法人の目的は、様々な障がい特性を理解できる「将来を支えるユース世代」・「今を支える壮年中年世代」サポーターを育成することである。この事業目的に沿って、「障がいのある人と歩く里山歩き事業」と座間市民を対象とした「講演会事業」の2事業を実施した。「里山歩き事業」は、第三日曜日の10:00~12:00に、猛暑の8月と厳寒の1月を除いて、10回開催した。散策コースは、県立座間谷戸山公園の約3km。散策後、感想会をサニープレイス座間の研修室で開催し、障がい者の親と意見交換を行い、対談から障がい者の様々な特性を学習した。 座間市民対象の講演会は、2025年12月6日に、サニープレイス座間の多目的室で開催した。演題は「発達障害のある子と共に過ごした40年～家族の喜び・悩みから共生社会を考える～」である。講師は、井上陽子氏(NPO法人宝島 元理事長)、ならびに大場規子氏(自閉症児者親の会座間やまびこ会員)の2名である。参加者数は38名。参加者による講演会の4択評価は、とても満足68%、満足32%、やや満足0%、不満0%であった。
7 添付資料	☒ 収支決算書 ☒ 事業詳細報告書 ☒ 事業記録写真 ☒ チラシなどの広報資料 ☒ 作成した冊子などの資料 ☒ その他(日本自閉症協会の広報誌「かがやき」:記事10頁、11頁)

相互提案型協働事業 評価シート

事業名	障がい者にも優しいまちづくり支援事業
-----	--------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。	
	十分達成できた。	事業の目的である「障がい者にも優しいまちづくり」を推進することができた。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。	
	第三日曜日に開催する里山歩き会は、参加する一般市民が前年度と比べて約 300%増加した。 里山歩き会の参加者に数名のリピーターが出現した。 2025 年 12 月 6 日に開催した講演会の演題「発達障害のある子と共に過ごした 40 年～家族の喜び・悩みから共生社会を考える～」は、参加者数 38 名で、参加者による「講演内容の 4 択評価」で、「とても満足」68%、「満足」32%、「やや満足」0%、不満 0%で、参加者から高い評価を得た。 当法人の地域活動は、幅広い座間市民に周知された。	障がい者との里山歩きでは、同じ体験を共有し、障がい者一人ひとりの違いを体感的に知ること、偏見が減り、理解につながった。 また実体験をとおした子育てについての講演会では、障がいがあることについて具体的にイメージでき、共感や理解を深めることができた。

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができたか。	

	障がい福祉課との対面打合せは5回実施した。また、メールを活用した情報交換は多数回に上った。 綿密な打ち合わせにより、事業目的「障がい者にも優しいまちづくり」は、障がい福祉課と共有できた。 また、事業実施に伴う課題は、その都度、協議することにより解決できた。	協働で事業を実施することの意義や達成目標の整理に加え、運営上のリスクや対応方針についても相互に意見交換を行い、認識の齟齬が生じないようにすり合わせを実施した。
--	---	--

事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	障がい福祉課との対面打合せを5回実施することにより、着実に「事業の進捗状況」を確認しながら、事業を実施できた。 必要に応じて事業スケジュールを見直した。	広報〆切のスケジュールや会場予約状況などの進捗状況については定期的に情報交換を行い、双方で適切に共有・把握した。 その結果、当初の計画どおり事業を実施できた。
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	当団体は、里山歩き指導者の講習会の運営、障がいのある人との里山歩き会の運営、及び講演会企画運営を担当した。 障がい福祉課は、「広報ざま」によるイベント記事の掲載、及び会場（里山歩き会、里山歩き指導者講演会、講演会）の確保を担当した。 双方が対等の対場で協議できた。	協議にあたっては、一方的な意思決定とならないよう配慮し、双方の意見や専門性を尊重しながら議論を進めた。
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	当法人の脆弱な広報力を、社会的信頼性が高い「広報ざま」で、実施事業の広報を補完した。「広報ざま」への記事掲載は、「障がい福祉課」の組織特性が反映された。 協働事業の広報面で、互いに補える関係が築けた。	協議や実務を通じて、双方の強みや役割分担を明確にし、それぞれの特性を活かしながら不足する部分を補完し合う関係を構築した。

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	(団体の役割) ・「里山歩き指導者」研修会の運営 ・障がいのある人との里山歩き会運営 ・座間市講演会の企画運営 ・「障がいのある人との里山歩きガイドヘルプ」小冊子の制作、及び里山歩き参加者への配布	(市の役割) ・企画広報 ・会場の確保 ・学校との調整

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適 正 さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	役割分担は、組織の特性を考慮したものであり、適正であったと判断する。	強みや専門性を踏まえた適切な役割分担だった。
実 施 結 果	設定した役割分担を果たすことができましたか。	
	設定した役割分担は充分果たすことができた。	それぞれの担当領域において計画どおり業務を進めるとともに、必要に応じて相互に連携・支援を行うことで、当初設定した役割を果たすことができた。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	里山歩き参加者数は、単独実施期に比べて、300%増加した。 「障がいのある人との里山歩きガイドヘルプ」冊子は自閉症児の様々な個性を解説し、サポーター育成に貢献した。 ガイドヘルプ冊子はNo.1(4月)、No.2(7月)、No.3(12月)の計3回改定され、地域支援事業所等から高い評価を得た。	強みや専門性を組み合わせることで、企画面・運営面の双方において相乗効果が発揮された。

4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	(団体の考え) 障がいのある人が地域で過ごし易い社会を構築する為に、市の関連事業は、民間団体と協力して進めることが望ましいと考える。	(市の考え) これまでの取組で得られた成果や知見を踏まえつつ、対象層の拡大するよう、実施形式等を検討し、継続的に障がい者理解に取り組むことが望ましいと考える。